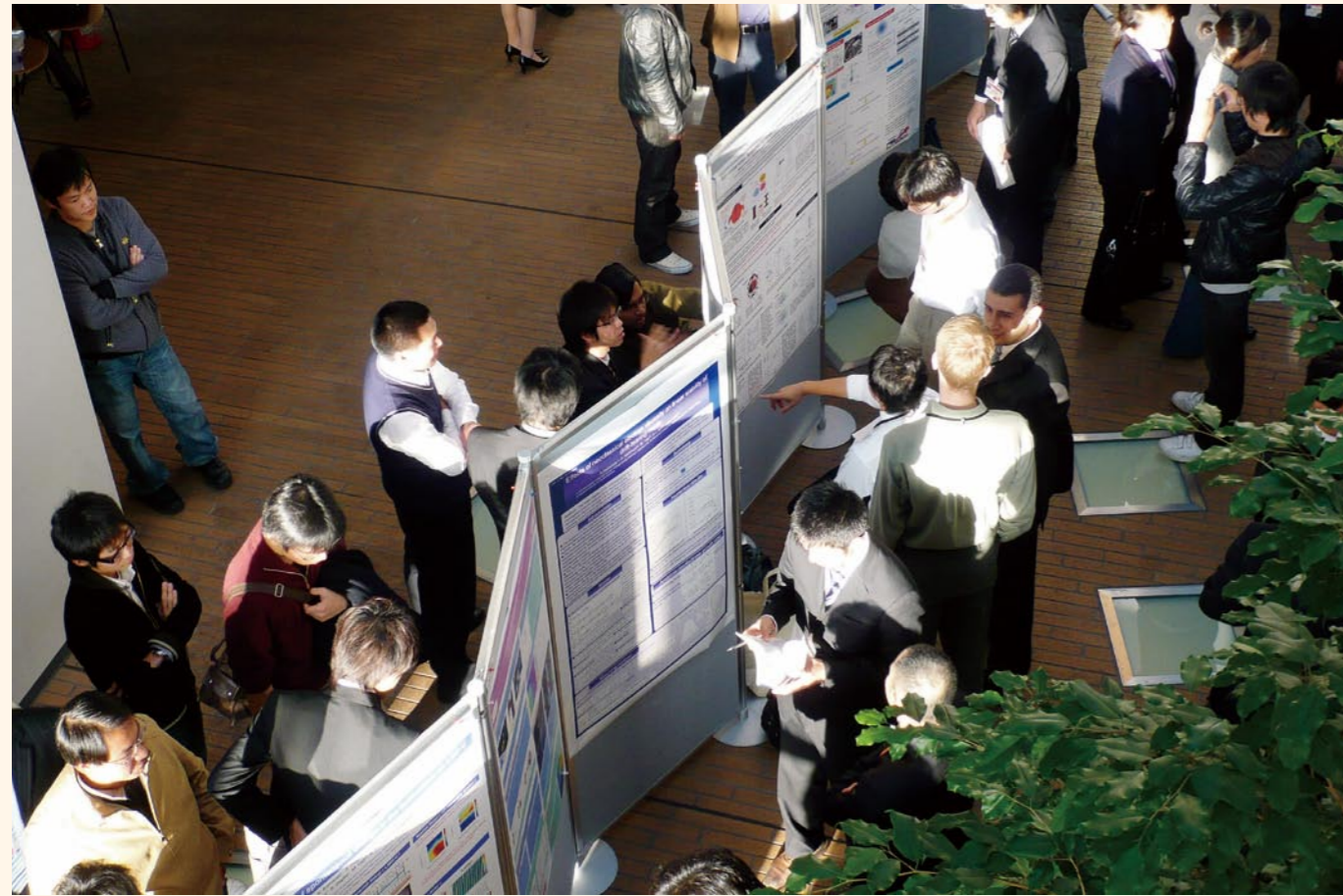


04 第10回 Cross Straits Symposium on Materials, Energy and Environmental Sciences (CSS10)

九州大学総合理工学研究院 寺岡 靖剛

Yasutake Teraoka



ポスター発表の様子

CSSについて

平成10年、九州大学大学院総合理工学研究科(平成12年4月から大学院総合理工学府)は『英語による「物質」「エネルギー」「環境」を融合した研究発表』を通じての学生交流の場を設けることを釜山国立大学校(PNU; Pusan National University)、浦項工科大学校(POSTECH; Pohang University of Science and Technology)の両校に提案した。PNUは大学間交流校、POSTECHは部局間交流校として長い交流実績があった点に加え、地理的に近く往来が容易である点が大きな要因となり、開催が同意された。このシンポジウムは、九州と対馬、対馬と韓国の二つの海峡を挟んで友好を深める意味をこめてCross Straits Symposium

on Materials, Energy and Environmental Sciences(CSS)と名付けられ、第1回は平成11年11月1-2日に発案した九州大学総合理工学府が主催して筑紫キャンパスで行われた。主催は3校の輪番制とし、第2回(平成12年11月2-3日)はPNU(韓国釜山市)、第3回(平成13年11月15-16日)はPOSTECH(韓国浦項市)が当番校を務め、4ラウンド目となる第10回を平成20年11月13-14日に九州大学筑紫キャンパスで開催した。

本セミナーは、九州大学総合理工学府、PNU、POSTECHの3つの大学間での開催であることから「3校セミナー」と称しているが、九州大学が主催した第7回(平成17年12月1-2日)では、中国の上海交通大学(SJTU)から2名の教員と6名の博士課程

学生を招待して、参加校の拡大を実現した。

CSSと学生の国際化教育

本シンポジウムは、発表の主体が博士学生であるばかりでなく、企画、運営の相当部分を学生が主体的に行っており、国際化教育の一環として成果を挙げているものとして、重要視している。総合理工学府において、平成17、18年度の魅力ある大学院教育イニシアティブ事業として採択された「ものづくり型実践的研究人材の戦略的育成」プログラムにおいても、CSSを重要な国際化教育プログラムと位置づけ、前述のCSS7へのSJTUの教員、学生の招聘やCSS8への学生の派遣などを行い、学生の国際力涵養に実効をあげた。

新炭素資源学G-COEにおいても、博士

講演発表数	POS TEC	PNU	SJTU	KU	計	
招待講義	1	1	1	1	4	
口頭	材料	2	2	3	7	
	環境	2	2	1	2	7
	エネルギー	2	2	1	2	7
ポスター	材料	3	7	2	30	42
	環境	4	2	2	9	17
	エネルギー	6	8	1	36	51
計	19	23	7	82	135	

各大学参加者の講演発表数

学生が主体的に運営する国際交流セミナーであるCSSは、必修科目に定めている「新炭素資源学国際演習」の趣旨に合致するものとして位置づけている。

CSS10について

CSS10は第4ラウンド目の最初として、また第10回の記念すべき大会として、九州大学大学院総合理工学府が主催して、平成20年11月13-14日に九州大学筑紫キャンパスで開催した。材料、エネルギー、環境の各分野から韓国側約40名、日本側約80名、さらに特別参加された上海交通大学からの8名の大学院生が集い、それぞれが口頭またはポスター発表を行い、それに関する議論を深めるとともに、学生セッション等により相互交流を深めることができた。今後3国の院生が、お互いに競争切磋琢磨して研究の促進に大いに寄与することが期待される。参加各大学からそれぞれ1名の教員による招待講演が行われたが、いずれも平易でありながら内容の濃いもので、院生向きに良く準備された感銘深い講演が行われ、教育効

果の極めて高いシンポジウムでもあった。講演発表数は上表のとおりで、優秀講演として口頭発表21件、ポスター発表10件が表彰された。また、このシンポジウムの高い意義を再認識して継続が決定され、次回は平成21年秋にPNUの主催で開催されることになった。

CSS10における発表、討論のみならず、企画、運営に、また後述の上海交通大学とのG-COEセミナーに総合理工学府所属のG-COE学生18名が積極的に関与し、それらをもとに「新炭素資源学国際演習」の1単位を認定した。

上海交通大学とG-COEセミナー

上海交通大学(SJTU)は新炭素資源学G-COEの海外コア連携校であり、上記のCSS10に学生、教員を招聘した。また、CSS10に先立ち、平成20年11月12日の午後、The First KU-SJTU Joint Workshop on Environment and Energy Issues in Relation with Novel Carbon Resource Sciencesを開催した。永島拠点

リーダーによる新炭素資源学G-COEの紹介、寺岡副拠点リーダーによるG-COE事業における両大学の連携構想についての紹介後、学生によるディベートを行った。

ディベートの対象テーマは、学生自身で「the use of coal as energy source instead of oil」と設定し、参加学生に事前にYes、Noの立場で各自の考えをまとめておくよう依頼していた。KUの代表学生(コーディネーター)によるエネルギー事情の簡単な紹介の後、価格、埋蔵量、環境汚染の観点から、日中学生が入り混じった「Yes」、「No」グループ間で活発な議論が繰り広げられた。このテーマには明確な回答があるはずもないが、何れの意見も説得力があった。「新炭素資源学」の根幹に関わるテーマであり、学生間での意見交換は極めて有意義であった。今回は、時間の制約で1時間半のディベートであったが、次回以降は教員、学生と一緒に長時間の企画を組めばさらに有意義なセミナーになること、ならびに学生の英語力が向上すれば実効がさらにあがることを両大学の教員、学生が確信した。

◆Program for discussion the "Selected Topics" by students

1. Introductions of students (Name, Major, ...)

2. Discussion the "Selected Topics" by students

We will debate about

the use of coal as energy source instead of oil.

2-1 Introduction of actual situation in general

2-2 Discussion on the use of coal based on three points (price, the amount of deposit, air pollution)

2-3 Opinion from professor

3. Closing this session



日中学生によるディベート